

「全少」を日本一研究する指導者による提案

# ZENSHOに 挑戦しよう!



第81回

養正館館長 渡辺貴斗



## 理不尽な要求をしてくる親たち(その5)

### ★ママさんが道場に望むこととは？

ベネッセと朝日新聞が定期的に行っている大規模調査に「学校教育に対する保護者の意識調査」というものがあります。その2018年版の「学校に望むこと」の項で、9割以上の保護者が選択した1位、2位は以下のとおりでした。

- 1位「子どもの学校での様子を保護者に伝える」95.5%の保護者が選択
- 2位「保護者が気軽に質問したり相談できるようにする」91.6%の保護者が選択

ほぼすべてと言っていい保護者が、「学校でのわが子の様子を知りたい」、「先生、聞きたいこと、言いたいことがあるんですけど」と考えていることが分かります。この調査結果から、道場に来ている保護者の心の内を垣間見ることができます。保護者が道場に望むことも、この2つに集約できると考えられます。この2つに対する策を練っておけば、保護者の不満が解消され、それどころか保護者とつながることもできるのです。

### ★道場での様子を知りたい!

全国の道場には、保護者の見学が自由なところと、見学できない道場があります。保護者の見学が可能な道場ならば、自分の子供の様子を知ることができますので、大きな不満はないでしょう（我が子の不甲斐なさにイライラするので見学しない、という保護者もいらっしゃるかもしれませんが……）。

見学を禁止しているわけではないが保護者の見学がほぼ皆無の道場、他の保護者は見学しているのにいつも見学に来ない保護者がいる、などの場合は、それら保護者への何らかのケアが必要になります。先に述べたように、保護者の望むことランキング1

位は「わが子の様子を知りたい」ですから、稽古中の様子だけでなく、「休憩時間は誰と話をしているんだろう、お友達はあるのかな?」なども、保護者のみなさん、関心を持っていらっしゃると思います。

様子を伝える具体的な方法として、道場通信を毎月発行する、子供が頑張っている映像や画像をスマホで撮ってLINEでその保護者に送る、道場での子供たちの様子・エピソードを各保護者に文章で伝える（メールや手紙）、などが考えられます。養正館はこの3つをできるだけやるようにしています（道場通信は最近サボっていますが。保護者のみなさん、すみません）。映像を送ったりすると、どの保護者も大変喜んでくださいます。保護者は我が子へのダメ出しは望んでいませんので、頑張っているシーン、褒められているシーンを送るようにします（本当は、叱られている時間の方が長い??）。自宅でもお母さんから褒められ、親子関係もうまくいくようになります。道場へも笑顔で通ってくれます。どうしてもダメ出しをしなくてはならないときは、まず、頑張っているエピソードを伝えてから、「あとここを直すと、もっと良くなってしまいますね（笑）」みたいに伝えると、どの保護者も気分を害さず、素直に受け入れ、感謝までしてくれます。

お迎えのときに、ひとこと良かった点をこちらから伝えるというのもよいですね。「今日、自分から白帯の子の帯をしばってあげてたんですよ」、「一番大きな声で返事して、みんなの前で褒められたんですよ」などです。

### ★先生、言いたいことがあるんですけど!

ベネッセ・朝日新聞合同調査の、「学校に望むこと」の第2位は、「保護者が気軽に質問したり相談

できるようにする」でした。

〈声を大にして言うほどではないが、ちょっと聞きたいことがある〉→〈でも大したことじゃないから言いにくい〉→〈言ったらうちの子、先生に嫌われるかな?〉→〈あぁ、やっぱり今回は言うのをやめておこう〉、となって溜め込んでしまうパターンです。ふだん、話しかけてくれないママさんでも、いったんこちらから話し掛けると、我が子の話が止まらない、なんていうことはよくあります。空手に最近行きたがらない、宿題をやらない、忘れ物が多い、家での行動にイライラしている、など。こんなにいろいろ言いたいことがあったのか、と驚きます。よって、ママさんから言いたいことが言えるシステムや環境を作ればよいのです。

ちょっと大変ですが、定期的に3者面談をする、などもよいでしょう。統計では、学校の家庭訪問を面倒なので無くしてほしい、と考えている保護者が多くいるそうですので、学校のように全員強制ではなく、希望者のみ面談します、のように募ったらいいかがでしょうか?

養正館ではメールで問い合わせしてくれる保護者が多いのですが、こちらからメールしてもあまり反応のよくない保護者もいます。そういったママさんにはLINEを使います。メールはあまり読まないが、LINEは一日に何度もチェックしている、というママさんがかなりの数いるように思います。

### ★道場への不満を溜め込む

保護者には、不満があっても溜め込んでしまう人

が一定数います。「こんなこと言ったら、うちの子、先生に嫌われてしまうんじゃないか?」と。何も言ってこない保護者は楽ですが、突然びっくりするようなクレームをつけてくるのも、このような普段、何も言ってこない保護者のみなさんなのです。

ここで、2001年上半期放送のNHK連続テレビ小説『ちゅらさん』第94話でのエピソードを紹介します。

主人公である看護婦の恵理に、恵理担当の入院患者が不満や文句を繰り返してきます。最後には、担当の看護婦を変えろと要求してきます。そのときに、同僚のななこ先輩が恵理にしたアドバイスが秀逸です。

「こういう風に考えなよ。ああいう患者さんは楽なの。そりゃ頭にもくるし、文句ばかりでめんどくさいし嫌だし。でも楽なの、ああいう患者さんは。だってさー、何かあったら必ず言うてくるでしょ、不満とかさあいろいろ。だから楽。それよりも難しいのは何も言わないで我慢してしまう人。辛くても大丈夫ですって我慢してしまう人。そういう患者さんの方が怖い。だからこう思えばいいわけ、“うるさい患者さんは楽” だって」。

### PROFILE

■渡辺真斗 TAKATO WATANABE

1968年4月20日生まれ。7歳から父である館長から空手の手ほどきを受ける。児童心理学や成功哲学を研究して子どもたちの「心をつくる」指導法に切り替え、2013年5名、2014年・2015年7名、2016年5名、2017年9名、2018年・2019年5名を全少入賞させ、一道場での全国最多入賞を連続で記録する。道場経営でも、一道場で350名を超える大躍進を続ける。



空手道場 養正館 / 静岡県沼津市本田町 11-12



Column

2022年 養正館 全少選抜 & 全中選抜 出場!

2月全少選抜、3月全中選抜の県予選会(県選考会)で、出場が決まった12名が、沼津市に表敬訪問しました。新設の団体形では、男女ともに優勝できました。「次は全国入賞し、もう一度報告に来ます!」と全員で頼重秀一市長(写真右)、奥村篤教育長(写真左)の前で宣言しました。

#### 写真前列 左→右

小2女子形1位・齋藤美月 / 小2男子形1位・向山 蓮 / 小5男子形1位・小学男子団体形1位・三井詠一郎 / 小学男子団体形1位・岡嶋玲

#### 写真中列 左→右

小学女子団体形1位・中村瑠那 / 阿部心春 / 尾花藍梨 / 小6男子形1位・小学男子団体形1位・伊藤泰暉

#### 写真後列 左→右

中2男子形1位・伊藤耀聖 / 中1男子形3位・向山遙希 / 中1男子形1位・松本颯哉 / 中1男子組手2位・芹澤連二

